

2024

6/9  
(日)

# とめよう！ 原発依存社会への 暴走 大集会

～地震も事故も まったなし～

(写真は最大震度7を観測した地震で  
ひび割れた「のと里山街道」  
日本赤十字社HPより)

不可能！  
避難・屋内退避

行き場のない  
使用済み核燃料！

原発やめろ、  
被ばくを  
させるな！



6月9日(日)

うつぼ公園 (裏に地図)

最寄駅:地下鉄四ツ橋線本町駅28番出口北へ

集会:午後1時～

デモ:午後2時30分～



主催:老朽原発うごかすな！実行委員会  
連絡先:090-1965-7102



# 地震多発の日本での原発推進は無謀で理不尽 一刻も早く原発全廃を！

能登半島大地震および発生後13年を経た福島原発事故は、「地震は、いつ、どこで、どの規模で発生するか予知できない。原発は地震に脆弱であり、過酷事故を起こしたとき、避難は困難を極める。一刻も早い原発全廃が求められる」ことを大きな犠牲の上に教えています。

福島原発事故は、当時、原発が稼働中であったため過酷事故に至りました。一方、能登半島大地震では、震源近くの珠洲（すず）市で計画されていた原発の建設が阻止され、志賀（しか）原発の稼働が食い止められていたため、過酷事故を回避できました。原発の建設、再稼働を阻止し、全廃を求める行動が、原発過酷事故から人の命と生活を守ったと言えます。

この大地震では、若狭でも震度4の強い地震動を観測しました。それでも関西電力（関電）は、高浜原発3号機、大飯原発3、4号機だけでなく、老朽原発・高浜1、2号機まで、稼働を継続しました。また、定期点検中であった老朽原発・美浜3号機を予定通り、1月18日に再稼働させました。さらに、1月21日には、高浜1号機で配管からの蒸気漏れなどが見つかったにも拘らず、運転を停止せず、出力を40%に落として運転を継続しました。原子力規制委員会もこれらを黙認しています。安全第一を標榜するのであれば、稼働を止めて、詳細な点検を行うのが当然であり、責務です。

その関電は「使用済み核燃料の中間貯蔵地を2023年末までに福井県外に探す。探せなければ、老朽原発を停止する」と約束していましたが、「使用済み核燃料のごく一部のフランスへの搬出」「上関町での中間貯蔵地建設のための調査」などの詭弁、奇策を弄して、昨年末でこの約束を反古にしました。福井県知事も約束反古を容認しています。「原発の運転継続ありき」の出来レースです。何としても、関電と福井県に当初の約束を履行させ、全ての老朽原発を廃炉に追い込まなければなりません。

大地震を目の当たりにしても、「原発依存社会」への暴走を続ける岸田政権は、原発推進法案（いわゆる「GX束ね法案」）を昨年5月に成立させましたが、関連法の整備が必要であるため、その多く

は未だ施行されていません。全面施行は来年6月といわれています。脱原発を求める市民の行動が拡大すれば、骨抜きにでき、実行不能に追い込むこともできます。

地震に脆弱で、過酷事故を起こしかねない原発、行き場がなく、何万年もの保管を要し、貯蔵プールが損壊すれば大惨事を招きかねない使用済み核燃料の発生源・原発の全廃を求めましょう！



▶カンパのお願い◀  
「6・9集会」へのご支援をお願いいたします

【郵便振替】  
〈口座記号・番号〉  
00990-4-334563  
〈加入者名〉  
老朽原発うごかすな！実行委員会